



鑑真和上座像



恵比寿

仏像を彫るⅡ

川崎 憲夫（大17）

作今のコロナ騒ぎで教室が休講になったり、作品展が中止になったりしているものの相変わらず仏像彫刻を続けています。

今年で始めてから九年になり、彫り上げた仏像も大小合わせて十二体ほどになりました。お陰で我が家の仏壇周りの出窓や床の間は仏像に占拠され、これ以上増えるとその置場に窮する状況です。

仏像は大別すると四つに分けられます。

一、如来・悟りを得た人。実在の釈迦のほか薬師、阿弥陀等で欲望がないため粗末な衣を身にまとい持っているだけですが、太陽を仏とする大日如来だけは別格で体には賑やかな装飾品をまといっています。

二、菩薩…悟りを求めて修行中の者ですが修行しながらも人々を救う役目を持っています。菩薩単独の場合もありますが、如来を中尊にして脇侍として置かれる場合もあります。（釈迦如来の普賢・文殊菩薩、薬師如来の日光・月光菩薩、阿弥陀如来の観音・勢至菩薩等）

三、明王…ヒンドゥー教が基になっている密教特有の仏像で、如来の優しさだけでは救えない人々を仏教に導くためその多くは怒りの表情をしています。（不動明王が代表的）

四、天…インドのバラモン教やヒンドゥー教の神で、仏教に取り入れられ守護神となったもので多くは甲冑を付け武器を持っています。（多聞天や持国天等の四天王や毘沙門天等）

それ以外では実在の高僧や釈迦の教えを受けた十大弟子等の肖像彫刻があります。

同じ仏像でもそれを彫った人によって表情も全く違ってきます。先生に言わせると仏様のお顔は彫った人に似てくるといわれます。

また、私の尊敬する仏師は、仏像は彫るのではなく木の中におられる仏様を、木屑を取り払ってお迎えするのだそうです。仏師生活六十年を過ぎてようやく到達した域に少しでも近づきたいと思っておりますが……